

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270600158		
法人名	社会福祉法人 福祉の里		
事業所名	ふるさと十和田		
所在地	〒034-0061 青森県十和田市切田字横道100-22		
自己評価作成日	平成30年10月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成30年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設事業所の敷地内にあり周囲には民家が少ない農村地帯であるが、季節の移り変わりを目や肌で直接感じられるような環境にある。施設の中の空間はゆったりとしており、利用者様の安全に配慮されている。利用者様一人一人とゆっくり関わることで信頼関係を築くようにしている。また、一日一日を楽しく暮らせるようレクリエーションを企画し実行している。環境をいかした散歩などを出来るだけ行い、体力維持に努めている。利用者の皆様が重度化してもできるだけここで暮らせるよう職員で話し合い介護している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな立地条件で、窓からは季節の移り変わりが望める。また、同敷地内にある法人の事業所といろいろなつながりを持ち、普段から往来と協力体制がある。建物の天井が高く、日光が入り込み木造の温かみがある。室温や湿度の調整に気を配り、利用者の健康管理に配慮されている。地域の介護体験学習等の受け入れをしており、外部とのつながりもある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念をホールに掲示し周知を図っている。その理念に基づき事業計画を立案し実践につなげている。	月1回の勉強会、朝礼の後に振り返っている。法人の年度目標、事業所の目標も理念に沿って計画し、ケアにつなげ評価して共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校への行事参加。中高生の職場体験、ボランティアの受け入れを行っている。	立地的に民家が少なく町内会に所属していないが、介護体験や職場体験等の機会を活かして、地域の小中学校と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で当施設の取り組みを報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回の実施。当施設での取り組みから感じることを率直に評価してもらい取り組んでいる。認知症状とまでいなくても、気になる事がある。寸劇などにして教えてもらいたいなどの意見も出た。ただいま検討中である。	事業所の取り組みや暮らしの状況を伝え、民生委員からの情報や地域の方からの意見等で更に暮らしやすいよう、またサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度からは十和田市西南地域包括支援センターの職員が参加。事業所の情報を共有し、協力関係を気づくように努力している。	平成30年度から地域包括支援センターの対応が変わり、運営推進会議にも参加して頂いている。これから重度化している利用者の現状等の理解と運営に意見を頂き連携していく予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束対策検討委員会を3ヶ月に1回実施。内部研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人内で相談の結果、安全を第一として玄関は不審者などの対応のためにナンバーロック、非常口も施錠の対応を続けている。利用者と家族にも説明をして理解して頂いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての内部研修を行っている。入浴時は特に身体の観察を強化し、虐待につながっていないか注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている入居者様2名。携わりながら勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、入居時に希望や不安を伺い、説明し対応している。契約に関する苦情はない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の皆様には普段の生活の中でコミュニケーションを図り要望、希望を聞いている。家族様に対しては家族交流会の場や面会時に聞いている。年に1回満足度調査を行っている。	意見箱を玄関に設置して周知をしているが、今までに投稿はない。面会時等に居室担当者が聞き取りをして意見を表せる機会を作っている。外部評価のアンケート結果も運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の運営会議、週1回十和田地区会議などで意見や提案を聞いてもらう機会がある。職員間では申し送りファイルを使用し意見、提案を聞いている。	個人目標の確認等で年2回個人面談があり、意見を発信する機会がある。職員の意見でハード面等が変わるなど反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人で年に2回人事考課を行っている。考課用紙には自由に意見を記入できる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	力量判定チェックを行い、スタッフ個々も目標設定している。法人内法人外の研修の案内も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流はなかなか時間が取れずできていないが、併設のみのり苑、のへじのグループホームと話をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時はできるだけ寄り添う時間を持ち、不安の軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望、要望をできるだけ聞き取るようにしている。ふるさと十和田での生活を理解してもらうよう、華輪道という個別の広報誌を配布している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用はなかなかできないが、本人、家族が必要としているサービスに対応できるよう取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が今までしてきた生活の中で出来ることを探し実施してもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の場を利用し家族さんならではの役割をを果たしてもらっている。利用者と家族様が直接触れ合えたり、ゲームを楽しんだりする機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設の施設を利用していた方も多く、夏祭りや文化展に参加する事でなじみの人に会える機会を持っている。	お盆などの自宅外出や知り合いの往来など、今までの馴染みの関係が継続できている。毎年地元の神社へ初詣でに車で出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自室で過ごす人は少なく、ホールソファーに座り皆でテレビを見たりレクリエーションを行い過ごしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現状では退居するとみのり苑に入所することが多い。みのり苑の相談員が中心となるためそちらへ情報提供している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話などから一人一人の思いを聞くようにしている。また、スタッフ間ではグットネス報告書を提出してもらい、気づいたことを共有している。	独自のアセスメント方式、「グットネス報告書」を活用し、本人が話した言葉や表情など、暮らしの中から意向を確認し、意向把握が難しい方からも職員も気づきを大切に、把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネージャさんへの聞き取り、家族さまなどから情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りで心身の状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様からの要望の聞き取り。6か月に1回のカンファレンスの開催。受診時主治医への相談、訪問看護への意見を頂き計画作成している。	居室担当者を決めてモニタリングは毎月実施し、3か月毎に総合評価をしている。必要に応じて見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はカルテに記録。気づきや工夫は申し送りファイルを活用し行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来るだけニーズに対応できるよう努力をしているが多様化まではできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学校への行事参加。中高生の職場体験時のふれあいなどで楽しく暮らせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々のかかりつけ医に定期的を受診し、日常の状態を報告している。また、緊急時は併設のみのり苑の常勤医に相談することもある。	今までのかかりつけ医の受診時に必要な情報を紙面で提供し、家族が対応できない時は事業所に対応している。協力歯科医院が必要時外来と訪問診療で対応して頂いている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護による週1回の訪問時に情報交換をしている。受診が必要か判断に迷う時は相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療連携室や病院の相談員、看護師さんと情報共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の状態が悪化、または重度化してきた場合は家族様と今後の話し合いをしている。	入居の契約時に事業所でできること、できないことを伝えて説明をしている。かかりつけ医や協力病院などその時の状況で個別に相談をしながら対応している。重度化により特別養護老人ホームの申込みなども説明して対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルはある。日々の観察を細かく行い、慌てないでできるよう勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設のみのり苑が主体となり対応している。災害時の避難場所は中学校となっており車で移動訓練の実施をしている。	日中と夜間を想定して年2回避難訓練を実施している。備蓄などは法人本部が行い、訓練時も協力がある。地元の消防署の協力を得て通報や初期消火の訓練も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人にあった声掛けを工夫している。 不適切なケアを勉強し振り返りをしている。	不適切ケアのチェックリストを活用したり、入浴は一対一で対応するなど人格を尊重したケアに取り組んでいる。安全のために居室の戸を開けることがある。	個人の暮らしの場の居室の戸が開け放しになることがあり、安全と尊厳について考えながら、今後ステップアップすることに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	難しいことなど意思決定することは少ないが、したいこと、食べたい物など具体的に話しかけ自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間以外はできるだけ自由に過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとに衣類を入れ替え、おしゃれを楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際は好き嫌いを聞いたり、食べたい物を聞いている。最近は麺類を食べたいと希望する方が多く週1~2回は提供している。	法人の栄養士が作成したメニューを参考に献立を食事係が作成している。季節の食材を使用したり、食器拭きなどできることをして頂くなど楽しむ支援に取り組んでいる。利用者と職員が同じものを一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	こまめに水分補給をしている。また、個々の好みの飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は個別に歯磨きや入れ歯洗い、うがいを徹底して行っている。また、入れ歯が合わなかったりする場合は家族と相談して歯科往診をしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、一人一人の排泄パターンを把握するようにしている。日中はトイレでの排泄が中心である。	利用者ごとにトイレ案内を声掛けしている。男性女性とトイレの表記が分かれているが利用と合致しておらず、今後修正をしていく。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床後、牛乳を提供。ホール内歩行練習。散歩、体操を毎日実施。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴は1対1で対応。利用者様が安心して入浴できるよう、スタッフの配置をしている。	機械浴で入浴剤が使用できないが、温度などを個別に合わせている。利用者のタイミングに合わせて午後入浴を行っているが、午前も希望に合わせて入浴できる体制がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室、ソファで自由に休めるよう環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情をカルテに入れて内容を把握している。服薬支援時間違いのないよう、個々の袋に薬をいれ確認して服薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	縫い物や農作業のアドバイス。歌が好きな利用者様には歌の披露などで活躍できる場を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠くへはいけませんが中庭の散歩を行っている。併設のみのり苑の池の鯉などを見に行くこともある。	出掛けたい時に事業所の車で外出できる体制がある。法人内の事業所にある売店に買い物に出掛けたり、敷地内を散歩している。2ヶ月に1回家族交流会があり、交流できる場がある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は金庫で管理している。自分から使いたいと希望する利用者はいないが、併設のみのり苑の売店などで買い物を楽しむ事はできる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は職員が仲介しかけることはできる。手紙のやり取りもできる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全室個室。浴室も家庭のものとはあまり変わらない作り。ホールも広く居心地良くできている。中庭が見え、利用者の皆さんが四季を感じられるようになっている。	天井が高く日の光を取り、広いリビングは開放感がある。くつろげる椅子がー列に並び、同じ方向を向いてテレビなどを楽しまれている。冬季は床暖で温かく、湿度温度は部屋毎に確認し調整されている。	掲示物の高さや字の大きさ、同じ方向を向いてー列のー人掛けのソファーなど画一的になっていることからー人ひとりの好みにあわせてくつろぎスペース作りに期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前でくつろぐスペースあり。また、少人数で談笑できる場所あり。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好きな家具など持ち込みは自由。今のところ持参する人はいないが、写真をはったりし安心して過ごせるよう工夫している。	事業所で用意したベッドやダンス等を一人ひとりが過ごしやすい部屋になるように工夫し配置している。家族の宿泊も可能な体制である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	案内やマークなど工夫している。		